



福島県立梁川高等学校  
令和元年9月27日  
校長だより  
知性 誠実 責任  
第 41 号

## ■ 総合的な探究の時間その2 - 1年生 -

### 〈つつこ引き祭り〉

- [内容] ① 保原町で行われるつつこ引き祭りについて、つつこ引き委員会の宮純子さんに話を聞いた。
- ② つつこは直径1.5m、長さ1.8m、重さ800kgあり、中にはもち米が入っている。
- ③ つつこ引き祭り当日には、3方向につつこを50人以上80人未満で引っ張ったり地面にたたきつけたりして決勝点を引っ張り合う。その決勝点には無病息災、五穀豊穰、商売繁盛の願いが込められている。餅をつきみんなにふるまう。この祭りは全国でも珍しく東京や大阪、広島などからも人がきている。
- ④ 伊達市の伝統行事であるつつこ引き祭りは無形文化財に認定されている。

### 〈梁川高校について - 卒業生にインタビューしました -〉

[昭和35年度卒業 70代女性]

- 梁川中学校の卒業生はみんな梁川高校に入学する時代でみんな真面目だった。在学中に「青雲の像」が建てられた。
- 学年4クラス、A組B組C組D組で1クラス40人程度だった。当時は定時制もあった。
- 商業コース、家庭コース、理数コースがあり、理数コースは大学に行く人が多かった。理数コースは男子が多く女子は9人しかいなかった。
- 部活動はバレーボール、野球、ソフトボール、書道、華道、美術、音楽などがあった。野球は県ベスト4になるくらい強かった。
- 制服は、女子は上着にスカートの人いればズボンの人もいた。男子は学ランに帽子を着用していた。
- 当時の行事で仮装行列があった。今回後輩の前でこのような話ができてよかった。

[昭和46年度卒業 60代女性]

- のんびりしていて全体的に男子が少なく女子が多かった。
- 3年生の時に校舎が新しくなった。1組から3組が普通クラスで4組が進学クラスだった。
- 数学、英語の授業が多く、体育の授業は2時間続きだった。
- 部活動は野球、テニス、演劇、体操、合唱、吹奏楽などがあった。テニスは人数が多かった。私は合唱部で大会が近いときは昼練をし、夏休みには合宿をした。
- みんな青春を楽しんでいる感じでのんびりと、とても楽しい高校時代だった。

[昭和57年度卒業 50代男性]

- 男子は学ランでヘアスタイルはリーゼント風の人が多かった。当時の学園ものの映画からの影響があったのかもしれない。
- 学年6クラスで約280名、全校で700名ぐらいの生徒数だった。3クラスが女子のみの学級で、残りの3クラスが共学だった。
- 普通の科目の他に商業系の科目もあった。美術、書道、音楽も選択科目だった。
- 部活動はかなりたくさんあり全部で24あった。私は吹奏楽部で、野球の応援、コンクールへの参加、文化祭や音楽祭への参加、夏休みは合宿等も行ってた。
- 学校行事で思い出に残っているのはマラソン大会で、文化系の部活だったので走るのが苦手だった。
- 社会人になってからの勉強も大変なので、今できることは必ず今やってください。自分の母校が自慢できるように学校生活を送ってください。

[平成18年度卒業 30代男性]

- 1年の時は荒れていたが、2・3年の時に落ち着いて平穏な毎日だった。
- 4クラスあり、そのうち2クラスが普通科で、実業系が1クラス、家庭科が1クラスだった。全校で300人程度だった。
- 授業では、書道と物理があり、物理は選択科目ではなかった。
- 部活動は野球、フットサル、卓球、バレーボール、サッカー（同好会）、吹奏楽、テーブルゲームなどがあつた。私はテーブルゲーム部で、カードゲームでマジックザギャザリングをやっていた。夏休みに学校の和室で1泊2日の合宿を行っており、高校選手権大会で毎年上位に入っていた。全国大会にいったこともあつた。
- 制服はシャツの色が最初は水色だけだったが、多くの人からの要望で白も取り入れられた。

[インタビューを終えて]

- 今では考えられない生徒数や部活動の数の多さに驚いた。また、どの世代の方々も梁川高校を誇りに思っていたのが伝わり、うれしかった。
- インタビューにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

【コメント】

- ① 今回は、調査活動にインタビューを入れてあるのがよい。インタビューは簡単ではない。人に話を聞くのは意外とむずかしい。いい経験ができたと思うので今後につなげてほしい。
- ② 人前で発表するのは、緊張はするし、とてもむずかしいことである。なかなかうまくいかない。今回のようなレポートをどのように相手に伝えるか。資料の提示はどうするか。声の大きさはどのくらいがよいか。慣れが必要である。回数と経験が必要である。今回は50分間で発表したのはたったの1回である。これからもどんどん経験してほしい。
- ③ レポートの内容、資料の作り方は、だれが、どんな人が読むのかによって変わってくる。相手を意識することが大切である。
- ④ 疑問に思っただけで調べてみると、さらに疑問が増え、もっと知りたくなる。そして、さらに調べたくなる。これが「探究」である。総合的な探究の時間で、ぜひこういった姿勢を身につけてほしい。